

編集後記

保育の実際の運営の上で一番重要なことは何でしょうかとしばしば尋ねられる。実際家が重要だと思ふこと、直接実地にたずさわらない者の思ふこと、両親の考えることなどそれぞれ違ふだろう。けれどもまた、そういう人たちみんなが一致してこの筋は外れたら困ると思ふこともあるだろう。この子どもを、ひとりひとりの子どもを、この私の子どもを、じゅうぶんに心身ともに発達させ、いろいろの面をのびるところまで伸ばしたいというところ、これは恐らく子どものこと、たずさわる人々の共通の関心だろう。ところで、子どものひとりひりを十分に発達させるためには、——それは云うに易くして行なうに難いことであるが——それぞれの子どもの毎日毎日の生活、その子どもの生活の中で起つてゐるべきこと、日々伸びゆく子どもの経験してゐることがらを、できるだけじゅうぶんに知つていなければできないことだろう。この子どもは今日はこうだった。その次の日はこうだったと、一しよに生活してゐて始めて指導できることだろう。このこ

とから、保育の実際の運営の形は、それだけの保育室などの条件に合わせて、自然にきまつてくるものではないだろう。か。もしも、子どものある能力だけをとり上げて、それだけを教育しようとしたら、いくつかの側面をとり出して、いわゆる学校の教科別指導のようにならば、それは幼児の教育の上に甚だ無理のゆゑことになるだろう。そのときには少なくともひとりひとりの子どもの毎日発達してゆくものを教育するという連続性は忘れられ、個々の子どもの理解の上に立つた教育が失なわれてゆくという危険がないだろうか。また、自由保育、一斉保育という対立も、一貫した毎日の生活の中で子どもが最もよく発達してゆくことが重要なのであることを思えば、本質的な対立とはならないものである。それはむしろ他の物理的、組織的な条件とも関連するものであらう。ひとりひとりの子どもがいかにしたら最もよく発達するかというところが我々の共通の関心であることを、見失なわれないようにしたいと思ふ。林氏の「幼児の造形」四月号まで連載。武藤氏の「幼児の栄養」も隔月位に連続する予定である。

幼児の教育 第五十五卷 第二号

定価金五十円

昭和三十一年一月二十五日印刷

昭和三十一年二月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発行所 株式会社フレール館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレール館にお願い致します。